

SEA LIFE NEWS

TOKYO SEA LIFE PARK



葛西臨海水族園

コウイカ

【英名】 Golden cuttlefish

【学名】 *Sepia esculenta*

水深100mまでの砂地にくらすイカのなかまです。墨を蓄える袋が大きく、関東ではスミイカとも呼ばれています。色素胞という細胞を広げたり縮めたりすることで、周りの環境に合わせて瞬時に体色を変えることができます。これにより、効率的に獲物を捕まえ、天敵から身を守ります。「東京湾にもいるこんな生物」水槽のコウイカを見てみると、体色を砂の色に近づけてじっとしていることが多いです。しかし、エビや魚などのエサを水槽に入れると、腕を上げながら距離をはかるようにそっと近寄り、長い触腕をシュッと伸ばして一瞬のうちに捕まえて食べます。じっと獲物を待ち構えている姿や獲物を捕まえる姿を見比べてみてください。（飼育展示係 森田 夕貴）

CONTENTS

SEA LIFE TOPICS

- バランスよく給餌するために
- 水族園うまれの生き物が増えました! ペインテッドグリーンリングの繁殖

なぎさNEWS

- 水面に向かってまっしぐら! ミサゴ
- なぎさで探そう! こんな生き物「ハマシギ」

水族園のもう一つの顔

- おいしい魚 サケとマグロのひみつをさぐれ!
- レイアウトにこだわりました! 干支展示

TSLP LATEST



Vol.21 No.1 2023

FEBRUARY

通巻

108

SEA LIFE TOPICS

バランスよく給餌をするために

これまでの号で、「大洋の航海者 サメ」(現在の「サンゴ礁の海」水槽で展示していたサメやエイのなかまを、「大洋の航海者 マグロ」水槽の「擬岩側」に移動したことはお伝えしました。擬岩側の生き物はスマやハガツオ、シノメサカタザメ、アカシモクザメ、ウシバナトビエイなど種数も増えてにぎやかになった一方、エサの与え方に工夫が必要になりました。水槽内の生き物にエサを与える時は、それぞれの生き物が食べられるエサの大きさや、食べ方、食べるスピードなどを考慮する必要があります。スマとハガツオはサメやエイより素早いので、水槽の上からエサをまくだけではスマとハガツオがほとんど食べてしまいます。そのためサメやエイには、手作りの“くす玉”を使って水槽の底でエサを与えています。しかし、それだけでは体の大きなシノメサカタザメが他のサメやエイを押しよけて多く食べてしまったり、くす玉を齧って壊してしまったりするなどの問題がありました。そこでシノメサカタザメにはトレーニングを行い、最初は目印(ターゲット)の“ボール”に近づくようにしました。これでくす玉を落とす場所から離れた所に誘導しておき、その隙にくす玉を落とすようにしました。この時、ウシバナトビエイが食べやすい、むきエビなどの小さめのエサを入れたくす玉を先に落とし、次にサメ用のアジやイカなど大きめのエサを入れたくす玉を別の場所に落とすことで、それぞれが確実にエサを食べられるようになりました。(飼育展示係 幅 祥太)

check!

「擬岩側」の生き物たちのエサは14:30からの「マグロのエサ」が終わった後! ガイドはおこなっていませんが、こちらにも注目してみてください。



種数も増えてにぎやかになった「擬岩側」



シノメサカタザメを“ボール”でひきつけ“くす玉”でサメやエイにエサを与える

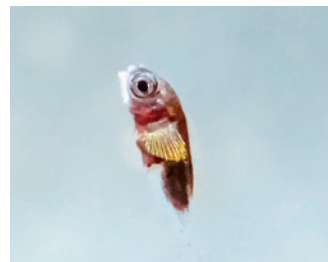
水族園うまれの生き物が増えました! ペイントッドグリーンリングの繁殖

「世界の海」エリア「カナダ西岸」水槽に、水族園で繁殖したペイントッドグリーンリングを展示しました。2021年4月のある朝、体を黒くしたオスが一定の場所から離れず、ほかの魚を追い払う行動が見られました。よく観察すると、カメノテのなかまのゲースネックバーナクルの隙間に、数十粒の塊になったオレンジ色の卵が産み付けられていました。後日、発生が進んでいることを確認し、卵を取り出してバックヤードの育成用水槽に移しました。産卵15日後から全長約5mmの仔魚がふ化し始めました。最初は口の大きさに合わせてシオミズツボワムシという小さなプランクトンを与えました。その後、成長に合わせてブラインシュリンプやイサザアミ類の幼生など、エサの種類や大きさも変えていきました。

さらに、仔魚がエサをいつでも十分に食べられるよう、水槽内のエサ量を調整し、照明も24時間点灯しました。水槽の汚れや食べ残しなどは病気の原因となるため、1日最低2回は丁寧に掃除をすることを心がけま



卵を守るオス



ふ化後36日目(全長約10mm)

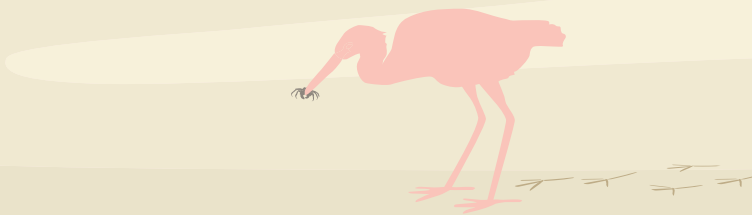
した。透明に近い小さな仔魚を吸うことなくゴミや汚れだけを取り除くには、集中力と根気と時間が必要で、これが一苦勞でした。手塩にかけた育成の結果、全長10cmほどの展示できる大きさにまで成長しました。

今回、ペイントッドグリーンリングの繁殖に成功し、公益社団法人日本動物園水族館協会から「初繁殖認定証」が授与されました。飼育下での繁殖は、野生からの導入のみに頼らずに展示が維持できるだけでなく、野生生物の保全や種の保存にもつながります。今後もより多くの生き物の繁殖にチャレンジし、良い展示が維持できるように頑張ります。(飼育展示係 石神 まゆか)



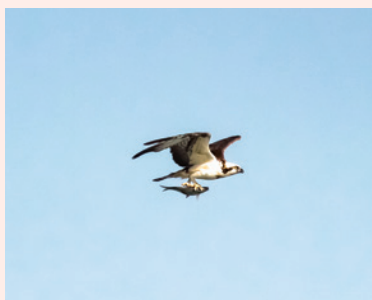
ペイントッドグリーンリング

なぎさ NEWS



水面に向かってまっしぐら! ミサゴ

海岸近くで見られる猛禽類(もうきんるい)という、トビを思い浮かべる方が多いと思いますが、魚を主食とするミサゴもよく見られます。トビは背後に森が広がっているような場所を好むのに対し、ミサゴは入江や湿地帯(しつちたい)など比較的平坦(へいたん)な地形の海岸線で見られます。ミサゴは、このような浅い水域の上空を飛びながら獲物をさがします。そして、獲れそうな魚がいると真逆さまに急降下(きゅうか)して、水面が間近に迫るやいなや鉤状(かぎじょう)の爪を前に出しながら海に飛び込み狩りを行います。私はこのような情景を何度か目撃しましたが、いつも狩りに成功するわけではないようです。失敗してもまた上空に舞い上がり、新たな獲物をさがします。ミサゴは数少ないものの、ほぼ1年中、葛西海浜公園周辺に生息しているようです。出会えるチャンスはなかなかありませんが、上空をゆっくり飛んでいた鳥が水面に向かってダイブしたらミサゴの可能性が高いです。「西なぎさ」に行った際には、ぜひ空にも注目してみてください。



海浜公園上空でコノシロを捉えて飛ぶミサゴ



翼を広げると150cm以上。腹側が白い

写真：高橋喜代治/アフロ

(調査係 池田 正人)

なぎさで探そう! こんな生き物

見つけやすさ ★★☆☆☆

サイズ 全長20cm

見つけるコツ

潮が引いている時に、「西なぎさ」の浜辺を見よう。ちょこちょこ歩いて、水際や水中で泥の中のエサを探す灰色の鳥、「ハマシギ」の群れがいるよ。
春が近づいてくると、日中に潮が大きく引いて広い干潟があらわれるようになるから、これからの季節は観察しやすくなるよ!

ハマシギ (シギ科)

■ハマシギはこんな生き物

シギのなかまは、寒い冬を南ですごすための旅の途中で、日本に立ち寄る旅鳥が多いんだ。その中で、ハマシギは日本で冬をすごす冬鳥だから、秋から春ごろまで日本全国で見ることができるとだよ。潮が満ちている時は「東なぎさ」にいて、引いている時に「西なぎさ」の干潟にやってくるよ。くちばしが頭より長く、下に向かって曲がっているのが特徴のひとつ。泥の中のゴカイやカニなどを上手に捕まえて食べるよ。飛び立つ時に一斉に鳴く、「ジュイー」「ピリィー」といった声も聞いてみてね!

(調査係 太田 智優)



くちばしが少し下に向かってまがっているよ



ツツツなぎさ

水際を歩くハマシギ

水族園 のもう一つの顔

おいしい魚 サケとマグロのひみつをさぐれ!

2022年10月、小学2年生以上の親子を対象に、サケとマグロそれぞれの生態や食卓にのぼるまでの過程を学ぶオンラインプログラムを行いました。いずれも食材として大人気の魚ですが、実際に海でどんな暮らしをしているのか、食べているのはなんという種なのか、知らない子どもが多いと以前より感じていたからです。前半は水族園と山形県遊佐町にある滝淵川を結んで、クロマグロとサケの生きている姿を観察してもらいながら、特徴的な体のつくりやくらしを学んでもらいました。もっとも見て欲しかったサケの遡上は、数百尾もの美しく色づいたサケが川を泳ぐ様子を水中カメラで中継することができ、参加者からは歓声があがりました。後半は、参加者に事前に購入してもらっていたサケやマグロを使った食料品が、なんとこの種を使っているのかを一緒に調べました。そして手軽にできるサケやマグロ料理を紹介し、食卓にのぼるサケ・マグロと、その生きている姿がつながるような工夫をしました。このような食育プログラムに今後も取り組んでいきたいと思えます。

(教育普及係 西村 大樹)

【協力：山形県遊佐町榎川鮭漁業生産組合 / 国立研究開発法人水産研究・教育機構】



尾形組合長にお話を伺いながらサケの遡上を中継

レイアウトにこだわりました! 干支展示

水族園では、2022年12月1日から2023年1月10日まで、干支のウサギにちなんで、サンゴアイゴとヒメアイゴを展示しました。諸説ありますが、アイゴのなかまは、口の形がウサギの鼻に似ていることから英語で「ラビットフィッシュ」と呼ばれます。海藻を好んで食べることから、今回の展示では、その様子を間近に観察できるよう、レイアウトにこだわりました。まず、左右で高低差のある岩組を設置することで立体感が出るようにしました。そして、緑藻や紅藻などをアクリル近くに配置しました。すると、アイゴたちはしきりについでみ、毎週新たな海藻を追加しないと食べつくされてしまうほどでした。ウミブドウとして有名なクビレツタも入れてみたのですが、好みだったのか、あっという間になくなってしまいました。水族園での飼育経験は1年目で、展示を企画し水槽を一から作り上げるのは大変でしたが、濾材や岩組を事前に海水に漬けこんだり、情報パネルを作成したりと、先輩からのアドバイスを参考に取り組みました。今回学んだ水槽の立ち上げ方やレイアウトの構成などを活かし、今後もみなさんの興味を惹く魅力的な展示が作れるよう頑張ります!

(飼育展示係 松本 あかり)



レイアウトどうしようかな……



完成した水槽

TSLP LATEST

TOKYO SEA LIFE PARK

- 12/1 干支展示水槽でサンゴアイゴ・ヒメアイゴを展示
- 12/4 小学1・2年生向け「いきものはじめ」第2回を実施
- 12/10 幼児向け「進め! 海のいきものたち」第1回を実施
- 12/15-16 伊豆大島でライトトラップ採集を実施
- 12/17 トピック水槽でサルバ目的一种を展示
- 12/17-18 「海鳥の生態」水槽で混獲回避実験とガイドを実施
- 12/24-25 スイーツツアー「海の中のオスメス事情」を実施
- 12/26-27 マトウダイ釣り採集を実施
- 1/2-3 「水族園のお正月2023」を実施
- 1/6 「アマモ場の小さな生き物」水槽にクロサギ(幼魚)を展示
- 1/9 「園長のSDGsトーク」を実施
- 1/12 「葛西の海 2」水槽にチクゼンハゼ・エドハゼなどを展示

編集後記

もし魚たちがエサを食べている場面に遭遇したら、じっくり観察してみてください。チョウチョウオたちがサンゴの隙間をついたり、ボラが首を振りながらアマモの表面をかじっていたり。どんなものをどうやって食べるのかを知ると、その生き物のもつデザインや行動に意味があることがわかるでしょう。そして、「なるほど」と感じた瞬間がとても楽しい!(高濱)



TOKYO
SEA LIFE
PARK

SEA LIFE NEWS 通巻 108

Vol.21 No.1 2023 FEBRUARY 2月1日発行(次号は2023年4月発行予定)

編集 葛西臨海水族園
〒134-8587 東京都江戸川区臨海町 6-2-3
TEL.03-3869-5152
www.tokyo-zoo.net/

発行 公益財団法人東京動物園協会
〒110-0008 東京都台東区池之端 2-9-7
池之端日殖ビル7階
TEL.03-3828-2143

